

外交史料館ニュース

一、外交記録公開

「公文書等の管理に関する法律」及び「外交記録公開に関する規則」(平成三一年外務省訓令第一号)等に基づき、平成三二/令和元(二〇一九)年内に以下のとおり外交記録を外交史料館に移管し、目録に掲載した(対象ファイルの概要は外交史料館ホームページにてご覧いただけます)。

一月三一日	三九四冊
二月二八日	一三七冊
三月二九日	四四〇冊
五月三一日	三二九冊
七月三一日	三九〇冊
九月三〇日	二八六冊
十一月二九日	四二〇冊
十二月二五日	一五冊※

※は特別審査済みファイルであり、即時閲覧可能な状態で公開された。

その中には昭和三〇(一九五五)年の重光外相の米国訪問や昭和四四年の佐藤総理の米国訪問、昭和六三年の竹下総理の米国・カナダ・中国訪問等が含まれる。全文書の画像が外務省ホームページに掲載された。

二、所蔵記録のマイクロフィルム化及びデジタル化の実施

戦後七〇年を契機として内閣総理大臣の下に設置された「二〇世紀を振り返り二一世紀の秩序と日本の役割を構想するための有識者懇談会」報告書において我が国が取るべき具体的施策として「アジア歴史資料センターの充実」が指摘されたことを受け、平成二八年度から同センターへの史料画像提供及び所蔵記録の保存などを目的として、戦後外交記録のマイクロフィルム化及びデジタル化の作業に順次着手している。三〇年度においては戦後外交記録のうち、第一〇回(第一二回外交記録公開で公開されたファイルを中心に作業を進め、同センターに五〇〇冊分の画像を提供した)。

三、リトアニア共和国大統領の外交史料館訪問

令和元年一〇月二三日、即位の礼へ参列のため訪日中のギターナス・ナウセーダ(Dr. Gitanas NAUSEDA)リトアニア大統領が外交史料館を訪問した(我が方は尾身朝子大臣政務官が対応)。ナウセーダ大統領は第二次世界大戦下に同国に在勤し、ユダヤ系避難民に対して「命のビザ」を発給したことで知られる杉原千畝の関連資料を閲覧した。

四、第一五回外交文書編纂者国際会議(二〇一九年ベルリン会議)

令和元年六月五日から八日まで、第一五回外交文書編纂者国際会議(15th International Conference of Editors of Diplomatic Documents)がドイツの主催により同国ベルリンにおいて開催された。

本会議は、平成元年の第一回ロンドン会議以来隔年ごとに開催されてお

り、今回の会議には、我が方をはじめ、欧州諸国を中心に一七カ国の外交文書編纂担当者などが参加、ベルリンの壁崩壊三〇周年を記念するプロジェクト「壁が崩壊した時―ドイツの再統一に対する国際的視点―」に関連した報告や各国における編纂事業の進捗状況・新規事業への取り組み等に関して意見交換が行われた。

五、展示

平成三十二年三月一九日から令和元年六月二〇日まで企画展示「国書・親書展―南北アメリカ編②―」を、また七月二日から一〇月四日まで、特別展示「外務省創設一五〇年記念 日本外交の一五〇年」を開催した。さらに一〇月一六日から令和二年一月三一日まで特別展示「日本とポーランド―国交樹立一〇〇周年―」を開催した。

連携展示としては、一月二日から二月一五日まで、和歌山県立近代美術館において、和歌山県・和歌山県教育委員会との共催で外交史料展「外交史料と近代日本のあゆみ」を開催した。特別展示及び連携展示の詳細は本号掲載の各記事を参照いただきたい。